

安定義歯

(すっぽんデンチャー)[®]

Stable Denture



安定する全部床(粘膜負担)義歯の科学的根拠に基づく製作法の開発と、
少数本埋入のIODや残根上義歯への臨床応用

著 今井守夫 (千葉県・ぐみょう今井歯科医院)



A4判変型・400頁
オールカラー
本体22,000円+税

臨床実績40年の集大成!!

待望の“リンゴ丸かじりができる
安定義歯(すっぽんデンチャー)[®]”の完結編。
すべては悩める多くの無歯顎者のために。



前著『リンゴ丸かじりができるImai Method Complete Denture』の発刊から5年、待望の後継・進化版です。本書は、全部床義歯の安定を「経験」や「匠の技」に依存して達成するのではなく、科学的根拠(力学と抵抗)に基づいて体系化した製作法によって再現性をもって達成することを目的に編纂されています。そして、安定を達成する基本的な考え方と手法を、“安定義歯(すっぽんデンチャー)[®]”の力学理論と臨床手技として提示しています。とくに、「安定して機能する全部床義歯(安定義歯)」の再現性ある製作のために、科学的な“力学理論”の構築と理論に基づく製作法、およびこれを応用した2IODや残根上義歯の「オーバードンチャーの力学的製作法」を詳細に解説しています。ぜひ前著と併せてご活用いただき、多くの無歯顎者のために“本物のすっぽんデンチャー”の実力を実感してみてください。

CONTENTS

本書の構成

プロローグ

Chapter 1: 序説

Chapter 2: 本説

1.“安定義歯”の製作法

I “すっぽんデンチャー”とは? “安定義歯”とは?

II 理論編

1. 序論/2. 本論/3. 基礎論

III 応用編

1. “力学理論”に基づく製作法の考え方
2. “力学理論”に基づく印象法
3. 印象の基礎と印象の手順
4. “力学理論”に基づく製作法の開発

IV 臨床編

1. 「力学的印象法」の開発と印象手順
2. 「力学的印象法」の詳細
3. 「力学的印象法」で製作した難症例の全部床義歯

2.“安定義歯”の臨床応用

「オーバードンチャーの力学的製作法」

Chapter 3: 復習

1. “安定義歯(すっぽんデンチャー)[®]”の製作法
2. “安定義歯”の臨床応用

Chapter 4: まとめと結論

リンゴ丸かじりができる

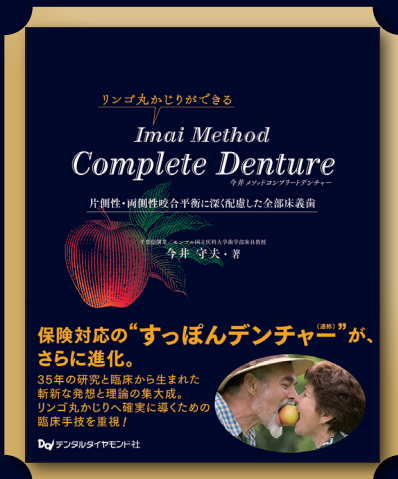
Imai Method Complete Denture

今井メソッドコンプリートデンチャー

片側性・両側性咬合平衡に深く配慮した全部床義歯

著 今井守夫 (千葉県・ぐみょう今井歯科医院)

保険対応の“すっぽんデンチャー®”がさらに進化!!
診査・診断から機能評価まですべてを網羅!



今も昔も「義歯の基本」は変わらないが、相変わらず「義歯は難しい」との声をよく耳にする。本書では、義歯の基本技術を突き詰め、製作に関するさまざまな要素を再確認し、“痛い、外れる、噛めない”理由を考え、トップダウンで考えて再構築した“違和感のない、外れない、噛める、飲み込める”義歯である“今井メソッドデンチャー”(すっぽんデンチャー®の進化形)を紹介。保険診療の範囲内であっても片側性咬合平衡の得られた、リンゴ丸かじりが可能な全部床義歯が製作できれば、昨今の経済情勢や基礎疾患等の身体的事由のある患者にとっては朗報となる。治療ゴールは皆同じである。誰もが納得して再現性をもってできるようにその理論を整理し、術者の習熟度による差異を極力減らすことができるように、術式のシンプル化を意識して執筆した。義歯に悩むすべての歯科医師の技術向上に役立てば幸いである。「プロローグ」より



【A4判変型・232頁・オールカラー 本体12,000円+税】

CONTENTS

Chapter 1 義歯への信念と治療哲学

I 今井メソッドデンチャーの原点

- 今井メソッドデンチャー“Imai method complete denture”とは?
- “今井式すっぽんデンチャー”から“今井メソッドデンチャー”へ 他

II 経営戦略的観点から考える“今井メソッドデンチャー”

- リンゴ1個の丸かじりが患者を幸せにする
- 保険診療でも製作可能—多様な選択肢により経営的優位性は向上する 他

Chapter 2 今井メソッドデンチャーの理論的背景 (機能を最優先した安定義歯製法)

I 解説編 総論

- よい義歯といわれるためには
- 義歯が安定し機能するためには、支持・保持・維持の3つの要素の調和が大切 他

各論 基礎

- 診査・診断は主訴の改善を目標に行う 他

各論 応用

- 診査・診断と治療困難性の予測 他

II 図説編 総論

- よい義歯といわれるためには
- 機能に優れた義歯といわれるためには、脱離・転覆に強い義歯となる必要がある 他

各論

- 診査・診断
- 診査・診断は主訴の改善を目標に行う。触診が重要 他

Chapter 3 今井メソッドデンチャーの臨床

I 解説編

- 診査・診断
- スナップ印象採得時の手順と注意点 他

II 図説編

- 顎堤吸収の比較的に少ない、顎位も安定している(初心者向け症例)
- スナップ印象は既製トレーの選択が重要 他

